

(海外) 出張報告書

2013年 9月 30日提出

氏名	岡川 朋弘
所属	大学院獣医学研究科 動物疾病制御学講座 感染症学教室
学年	博士課程 2年
出張先	ミラノ大学 (イタリア・ロンバルディア州・ミラノ)
出張期間	2013年 8月 27日～9月 3日
目的	10th International Veterinary Immunology Symposium における口頭発表

活動内容

私はこれまで、ウシの免疫抑制因子に注目し、慢性感染（持続感染）に伴う免疫抑制が様々な抑制因子により制御されていることを、牛白血病ウイルス感染症をモデル疾患として研究してきた。今回私は、第 10 回国際獣医免疫学シンポジウム（10th International Veterinary Immunology Symposium; IVIS）に参加し、これまでの研究成果について口頭発表を行った。

IVIS は、獣医免疫学において最大の国際学会で、3年に1回開催されている。今回の学会では、33か国もの国々から約500名の参加者がイタリア・ミラノ大学に一堂に会し、8月28日～9月1日の5日間にわたって13の分科会および11のワークショップが開催された。

開催地となったイタリアのミラノは、イタリア北部最大の都市であり、商業・工業・ファッション・金融の中心である。ミラノ大学は、ミラノ市内の中心部に位置する国立大学で、1924年に設立され、獣医学部を含めた9つの学部で構成されている。学会が開催されたミラノ大学本館は、細かく施された彫刻が印象的な歴史的建造物であった（図1）。

私の口頭発表は、学会4日目に割り当てられていたため、自分の発表時間以外は他の研究者の発表を聴講した（図2）。発表内容は一口に「免疫学」と言っても幅広く、私の専門分野である感染免疫だけではなく、免疫系の発生・分化、免疫制御、局所免疫、分子免疫学、ワクチン開発、臨床免疫学に至るまで、多様な分野の最新の知見を得ることができた。聴講は単に勉強になっただけではなく、自分とは全く異なる分野やアプローチの研究から、私自身の研究に応用できるアイデアをいくつも得ることができたので、非常に有意義であった。

学会2日目には、口頭発表で話す内容の一部をポスターセッションで発表した（図3）。免疫学に詳しい先生が相手だったので、普段はできないような、細かい内容まで踏み込んだ議論をすることができ、とても充実した時間を過ごした。更には、他の参

加者のポスターも見て回り、気になった点を質問・議論した。新しい実験手法や研究のアプローチについて、幅広く学べる良い機会であったと思う。一方で、英語圏の先生の流暢な英語が聞き取れず、聞き返してしまう場面が数多くあった。リーディングプログラムのカリキュラムを通して、以前よりは自分の英語力が向上したとは思いますが、今回の学会では自分の力不足を切実に痛感した。現状に満足せず、更に英語力を養っていきたい。

また、学会3日目には、Networking and career workshop for young immunologists というワークショップにも参加した。このワークショップは、博士課程の学生やポスドクを対象として、獣医免疫学の第一線で活躍する若手研究者の先生から自分のキャリアパスや体験談を聞くという趣旨のものだった。海外の研究者のキャリアパスの現状が垣間見られ、有意義な話を聞くことができた。

そして、学会4日目の Workshop – Immune response to viral infections において、“Increased expressions of immunoinhibitory receptor Tim-3 and its ligand during bovine leukemia virus infection” と題して、牛白血病ウイルスの慢性感染に伴う免疫抑制因子の発現動態と病態進行との関連について、口頭発表を行った（図4～6）。国際学会での初めての口頭発表であることに加え、質疑応答の時間を含めて30分間という長丁場の発表だったため、発表前からとても緊張したが、練習の甲斐もあり無事に発表を終えることができた。そして、発表後には聴衆の方々から多くの質問を頂いた。免疫抑制因子の免疫学的な特徴や詳細な機能、他の感染症との関連性、牛白血病の日本での現状、更には臨床応用への展望など幅広く議論を行った。質問時間の間は、流暢な英語についていくことに必死だったが、海外の先生から有意義な助言やコメントを頂いたことは、今後の糧となると感じている。

博士課程在学中に、本格的な国際学会で口頭発表をする機会に恵まれ、自分にとって有意義な経験になった。この経験を博士課程での活動とその後の自分のキャリアに活かして行きたいと思う。



図1 ミラノ大学



図2 学会本会場の様子

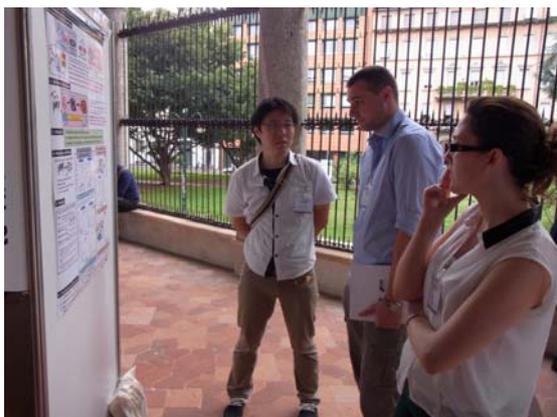


図 3 ポスターの説明をする筆者



図 4 口頭発表を行った会場の様子



図 5 口頭発表中の筆者



図 6 セッション終了後のディスカッション
(右は Barberio 博士)